



札幌コンベンションセンター

札幌コンベンションセンターは、国内外のコンベンションや、主にアジアで盛んな企業の報奨旅行で数百人から千人規模の団体旅行となるインセ

ビジュアルプロジェクトでは、札幌の魅力を実感に訴えてアピールします。例えば、このほど新たな観光ポスターを作成。また、観光写真、お土産コース、絵手紙など観光PR素材の市民コンクールを開催しました。

そして、コンベンションプロジェクトでは、国内外のコンベンションや、主にアジアで盛んな企業の報奨旅行で数百人から千人規模の団体旅行となるインセ

集客交流・シティPRキャンペーン

札幌市の観光事業の一つとして平成十五年度から実施している「集客交流・シティPRキャンペーン」では、

五年に一度実施している札幌市観光産業経済波及効果によると、平成十一年の市内における観光レジャー消費額は四千二百八十六億円。これによる経済波及効果は生産額で六千二百二十四億円です。これは、約四万人が一年間にわたって就労できる額になります。現在、札幌への来客者数は、年間約千三百万人ですから、市が現在目標に掲げている「年間二千万人」の実現は、本市経済にどれだけ大きな効果をもたらすかがお分かりいただけるのではないのでしょうか。

人を引き付ける街

札幌がお客さまを引き付ける街となるために、市ではさまざまな観光事業を企画・実施しています。しかし、来客二十万人を実現するためには、行政だけではなく市民・企業との協働が必要となります。観光やコンベンションは重要な基幹産業である。まず、札幌の街全体が、その認識を持たなくてはなりません。そして、札幌を国内外にPRしていくための「街の魅力」を引き出す方法を考えることも必要です。その一つに数えられるのが「さっぽろ流のおもてなし」。お客さまを迎える心構えを、札幌ならではの形で準備するのです。それが見つかってこそ、札幌に年間二千万人のお客さまを迎えるという大きな目標に近づけるのかもしれない。

札幌を訪れる人を増やしたい。訪れた人には札幌を好きになってほしい。そのための街の魅力づくりには、市民や企業を含めた街全体の取り組みが必要です。札幌市では、市民の「おもてなしの心」を盛り込んだ観光事業を積極的に展開中です。

観光事業 札幌市の取り組み

四季にぎわう観光都市をめざして

さっぽろの魅力、こんなふうにアプローチ

定山溪地域振興 魅力あふれる「奥座敷」へ



観光客にとって大きな魅力となる温泉。もっと多くの方に定山溪を知ってもらい、札幌の良さを味わってもらおうと、施設などの改修・新設を行っています。平成15年には新名所として2つ目の足湯施設が完成しました。また、アジアからの観光客の対応に備えホテル従業員の語学研修を支援しています。地域独自の取り組みも盛んで観光スポットを無料巡回する「かっぱバス」を昨年1日4回試験運行。地域と行政が共に定山溪の振興に努めています。

さっぽろフィルムコミッション ロケ隊を札幌に呼ぼう



平成15年4月、(財)国際プラザ内にさっぽろフィルムコミッションを設立しました。主な活動は、映画制作やCMなどのロケーションの紹介や撮影使用許可申請のサポート。また、提供企業の紹介やボランティアのエキストラ登録も行います。市民はエキストラ出演することで札幌PRに参加できます。ロケ地となることでさまざまな景観が混在する札幌の魅力を、全国、そして世界中に伝えることができます。

国際観光誘致促進事業 アジアで札幌PR



市では、今後、旅行市場として有望な東アジア地域で積極的なPR・誘致活動を行っています。平成15年10月に中国の北京市、広州市および上海市で中国観光セミナーを実施、平成16年3月には北京市と大連市のマスコミ関係者を招へいしました。また、韓国のソウルでも平成15年6月に、「韓国国際観光展(KOTFA2003)」、さらに「ソウル・札幌の物産と観光フェア」を平成16年2月に開催しています。



平成16年に完成した新しい観光ポスター